

## 資料・統計

## 2018年中央手術部統計

## Annual Report of Operations in 2018

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

## 1. 消化器外科

		非上皮性腫瘍	
		GIST	開腹 1 腹腔鏡下 2
胃			
胃癌	236	悪性リンパ腫	0
Staging laparoscopy	49	その他	1
切除		その他	4
全摘	開腹 19 腹腔鏡下 11	食道	
残胃全摘	開腹 8	良性腫瘍	0
噴門側切除	開腹 4 腹腔鏡下 15	非上皮性腫瘍	0
幽門側切除	開腹 30 腹腔鏡下 78	食道癌	43
PPG	開腹 0 腹腔鏡下 2	右開胸 (腹腔鏡併用1)	9
分節切除	開腹 0	胸腔鏡下 (腹腔鏡併用2)	30
SSD・部分切除	開腹 0 腹腔鏡下 0	腹腔鏡下 (胸腔内操作あり)	1
非切除		開腹	0
単開腹	0	胸腔鏡併用咽喉食道全摘	2
バイパス	開腹 2 腹腔鏡下 1	遊離空腸移植	0
その他	0	食道抜去	0
再発		試験開胸	0
肝転移切除	0	頸部リンパ節郭清	1
卵巣転移切除	0	腹部リンパ節郭清	0
リンパ節郭清	0	食道切除後2次的再建術	0
局所切除	1	バイパス術	0
腸切除	2	胃管癌	0
バイパス	2	胃管全切除 (胸骨縦切開)	0
人工肛門造設	0	胃管部分切除	0
その他	0	特発性食道破裂	0
イレウス		肝胆膵 101	
癒着剥離	2	肝腫瘍	
腸切除	1	肝細胞癌	9
バイパス	0	肝内胆管癌	5
人工肛門造設	0	転移性肝癌	11
胃瘻・空腸瘻	0	その他肝腫瘍	4
腹壁癒痕ヘルニア		胆道癌	
修復術	開腹 1 腹腔鏡下 0	十二指腸乳頭部癌	4
		胆嚢癌	3
		胆管癌	7
		膵疾患	
		膵臓癌	24
		IPMA・MCN	0

内分泌腫瘍	2	結腸良性	2	
その他悪性腫瘍		(腹腔鏡下手術)	1)	
十二指腸癌	1	直腸悪性	94	
GIST	1	(腹腔鏡下手術)	74)	
小腸癌	0	低位前方切除術	35	
NHL	2	前方切除術	26	
その他悪性	4	超低位前方切除術	16	
その他		直腸切断術	6	
胆石症・胆嚢ポリープ	16	非切除術 (人工肛門造設術)	4	
肝内結石症	1	経肛門的切除術	3	
汎発性腹膜炎	1	骨盤内臓全摘術	2	
ヘルニア	0	ハルトマン手術	2	
腹腔内膿瘍	0	直腸良性	0	
腸閉塞	2	再発・転移	44	
閉塞性黄疸	0	(重複あり)		
その他良性	1	肝切除術	26	
術後合併症	3	腹膜播種腫瘍切除術	12	
術式		直腸切断術	3	
膵全摘	1	小腸部分切除術	2	
膵中央切除	1	骨盤リンパ節郭清術	2	
膵頭十二指腸切除	24	試験開腹術	2	
膵体尾部切除	8	卵巣摘出術	1	
肝切除	23	傍大動脈リンパ節郭清術	1	
肝門部胆管癌手術	4	低位前方切除術切除術	1	
胆嚢癌根治術	3	膵体尾部切除術	1	
胆管癌手術	0	バイパス術	1	
小腸悪性腫瘍手術	0	骨盤内臓全摘術	1	
腹腔鏡下胆嚢摘除	12	鼠径リンパ節郭清術	1	
ラジオ波焼灼	1	人工肛門造設術	1	
腹腔鏡下肝切除	2	肝転移	26	
その他悪性腫瘍手術	0	(上記原発再発症例に含まれる)		
開腹胆摘	4	異時	18	
総胆管切石	1	(上記再発症例に含まれる)		
胆道再建	4	同時	8	
PTCD/PTAD	0	(上記原発症例に含まれる)		
その他	13	その他の手術	89	
		(内緊急手術)	19)	
結腸、直腸手術症例	全身麻酔手術	316	他科癌・他癌	23
原発		191	人工肛門造設術	2
結腸悪性		97	腹膜播種切除術	2
(腹腔鏡下手術)		69)	大腸切除術	13
右半結腸切除術		53	小腸部分切除術	4
S 状結腸切除術		27	腸管修復術	1
横行結腸切除術		4	腋窩リンパ節郭清術	1
回盲部切除術		4	人工肛門閉鎖術	35
下行結腸 S 状結腸切除術		2	鼠径ヘルニア根治術	5
左半結腸切除術		2	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア手術	4
低位前方切除術		2	洗浄ドレナージ (腸管修復含む)	4
大腸垂全摘術		1	腸閉塞手術 (腸切除あり)	3
横行結腸下行結腸切除術		1	膿瘍ドレナージ術	3

洗浄ドレナージ, 人工肛門造設術	2
虫垂切除術	2
腹腔鏡下虫垂切除術	2
人工肛門造設術	2
腹壁癒痕ヘルニア手術	1
直腸切断術	1
痔瘻根治術	1
人工肛門形成術	1

2018年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道:43件 (7件減少), 胃:236件 (37件減少), 結腸・直腸:316件 (33件減少), 肝胆膵:101件 (4件増加)であった。鏡視下手術の件数は、食道:31件 (3件減少), 胃:108件 (13件増加), 結腸・直腸:144件 (27件減少), 肝胆:14件 (3件減少)であった。緩和ケア病棟開設工事に伴う病棟閉鎖が件数減少に影響したと考える。癌患者の高齢化や上皮内癌の増加により、治療の主体がより低侵襲な手法へ移行し、全国的な手術数の減少傾向も認められる。癌手術治療の集約化が現実味を帯びてきており、癌専門施設として受け皿となるべく一層の技術向上と、症例に応じた手術侵襲の配慮や術後QOL向上の探求が望まれる。(文責 消化器外科 會澤雅樹)

2. 乳腺外科

外来手術	
乳腺	4
入院手術	
良性+プローベ	6
乳癌	310
Auchincloss	65
Mastectomy + SLNB	116
Simple mastectomy	16
Lumpectomy + Ax	18
Lumpectomy + SLNB	53
Lumpectomy	42
その他	
局所再発 (リンパ節, 創)	10
温存乳房内再発 (乳房切除)	18
温存乳房内再発 (乳房再部分切除)	1
後出血	1
その他	8
【エキスパンダー挿入: 上記手術数に算定済み】	
1次2期再建	28
(うち1例は温存乳房内再発に対して)	

2018年の原発性乳癌手術数は310件で、昨年より6件の減少であった。温存療法は約36%に施行されており、2013年 (60%), 2014年 (51%), 2015年

(47%), 2016年 (41%), と低下傾向は継続していたが、2017年 (36%) との比較では不変であった。40%前後で推移するのかもしれない。腋窩リンパ節手術を施行した252件のうち、センチネルリンパ節生検 (SLNB) のみでの終了は169件 (約67%)であった。1次2期再建の件数は昨年と同数であった。患者の価値観は多様であり、手術・薬物療法・放射線療法と初期治療に対する医療者側の細やかな対応も求められる。(集計・文責 神林智寿子)

3. 呼吸器外科

( ) 胸腔鏡手術

1. 気管 (支) 疾患	0
2. 肺疾患	250(214)
2-1  良性肺疾患	10( 8)
炎症性腫瘍	4( 2)
真菌症	2( 2)
その他良性肺腫瘍	4( 4)
過誤腫	1(1), 肺動静脈瘤 1(1),
その他	2(2)
2-2  悪性腫瘍	250(214)
2-2-1  原発性肺癌	213(176)
全摘除	1( 0)
肺葉切除	182(155)
区域切除	17( 12)
部分切除	3( 2)
試験胸腔鏡	4( 4)
他  生検 3(3), 再発 3(0)	
2-2-2  転移性肺腫瘍	47( 38)
大腸癌肺転移	28( 21)
腎癌	5( 4)
肉腫	4( 3)
子宮体癌	3( 3)
肺癌	2( 2)
その他	5( 5)
(膀胱癌, 膵癌, 食道がん, 汗孔癌, 前立腺癌 各1)	
2-2-3  その他の悪性肺疾患	0
3. 縦隔疾患	6( 1)
3-1  縦隔腫瘍	6( 1)
胸腺癌	4( 0)
悪性リンパ腫	1( 1)
甲状腺癌縦隔リンパ節転移	1( 0)
3-2  縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	27( 12)
気胸	6( 6)
膿胸	5( 2)
術後出血・血胸	4( 2)
術後肺漏	3( 0)

孤立性線維腫	3( 2)
術後気管支断端瘻	2( 0)
胸膜腫瘍 (中皮腫)	2( 0)
肺膿瘍	1( 0)
その他	1( 0)
5. 胸壁疾患	0

2018年の手術総数は305件で、前年とほぼ同数であった。肺悪性腫瘍の手術は250例と前年からやや減少した。原発性肺癌に対する完全鏡視下手術は、対象症例を選択し術者の固定により手技が安定し、完全鏡視下肺葉切除は前年48.7%から85.1%と増加、完全鏡視下区域切除は前年の6%から70%と増えた。転移性肺腫瘍に対する手術は47例と増加し約80%が胸腔鏡手術であった。(文責 吉谷克雄)

#### 4. 整形外科

##### 腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	151
生検	9
良性軟部腫瘍	計 160
良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	17
切除+人工関節	0
生検	9
良性骨腫瘍	計 26
悪性軟部腫瘍	
広範切除	10
広範切除+皮弁など再建	3
切断	4
生検	6
悪性軟部腫瘍	計 23
悪性骨腫瘍	
広範切除	3
広範切除+人工関節・自家骨移植	1
切除	1
生検	3
悪性骨腫瘍	計 8
転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0
転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	6
切断	0

広範切除+人工関節	1
人工骨頭置換術	0
切除・生検	4
転移性腫瘍	計 11
腫瘍性疾患	計 228

##### 非腫瘍性疾患

脊椎疾患	
腰部脊柱管狭窄	0
腰椎椎間板ヘルニア	0
脊椎疾患	計 0
股関節疾患	
人工股関節置換術	0
人工骨頭置換術	10
股関節疾患	計 10
膝関節疾患	
人工膝関節置換術	0
観血的関節授動術	0
滑膜切除	1
膝関節疾患	計 1
肩・肘・手関節疾患	
腱鞘切開	4
手根管開放術	0
滑膜切除	1
神経移行, 剥離	0
腱移行	1
デュプイトレン拘縮手術	1
肩・肘・手関節疾患	計 7
その他	
骨接合術	18
骨搔爬術 (骨髄炎手術)	1
デブリードマン	7
観血的脱臼整復	3
切断 (感染、壊死)	2
抜釘・異物除去	3
その他	計 34
非腫瘍性疾患	計 52

総合計 280

手術件数は前年と同数であった。腫瘍性疾患の比率は81.4%であった。腫瘍性疾患のうち良性骨軟部腫瘍81.6%, 悪性骨軟部腫瘍13.6%, 転移性腫瘍4.8%

であった。原発性悪性骨軟部腫瘍数はほぼ同数であったが、転移性骨腫瘍例は半減した。

(文責 山岸哲郎)

5. 脳神経外科

総手術件数	31
1) 腫瘍摘出術	5
悪性腫瘍	5
良性腫瘍	0
2) 脳血管障害	1
血腫除去術	1
他	0
3) 頭部外傷	6
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	6
4) その他	19
オンマイヤー設置	13
生検術	4
他	2

全身麻酔下での頭蓋内腫瘍摘出術は5例で、その内訳はグリオーマ1例、転移性脳腫瘍4例であった。担癌患者が対象であるため、摘出術のできる状況が少ないということから、多くの症例がノバリスによる定位放射線治療の適応となっていて、定位放射線症例は本年度40例であった。嚢胞性の転移性脳腫瘍には局所麻酔下に穿頭術によるオンマイヤーリザーバーの設置術を行っているが、昨年6例であったのが本年は13例にも及んだ。(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	33
子宮筋腫	22
子宮腺筋症	1
子宮頸癌	2
CIS/AIS	2
I A1期	3
I B2期	1
子宮内膜増殖症	1
LEGH疑い	1
その他	3
腔式子宮全摘出術	2
CIS	1
高度異形成	1
準広汎子宮全摘出	5
子宮頸癌	1
I A1期	1
I A2期	1

子宮体癌	I A期	1
	II期	2
<hr/>		
広汎子宮全摘出術		10
子宮頸癌	I B1期	5
	I B2期	2
	II B期	1
子宮体癌	II期	1
その他		1
<hr/>		
子宮体癌手術		62
(原則的に子宮全摘出術 + 両側附属器摘出術 + 骨盤リンパ節郭清, 準広汎子宮全摘以上を除く)		
子宮体癌	I A期	41
	I B期	12
	II期	3
	III A期	2
	III B期	0
	III C1期	0
	III C2期	2
	IV A期	0
	IV B期	2
<hr/>		
悪性子宮付属器腫瘍手術 (原発性)		33
(原則的に子宮全摘出術 + 両側附属器摘出術 + 骨盤リンパ節郭清 + 大網切除術) (卵管癌, 腹膜癌, 原発不明癌含む)		
卵巣癌	I A期	7
	I B期	0
	I C期	7
	II A期	1
	II B期	2
	II C期	0
	III A期	0
	III B期	1
	III C期	3
	IV A期	0
	IV B期	1
卵管癌	I A期	0
	I C期	0
	II A期	1
	II B期	2
	III B期	0
	III C期	0
	IV B期	0
腹膜癌	III B期	2
	III C期	1
卵巣境界悪性腫瘍手術		4
<hr/>		
子宮頸部円錐切除術		85

子宮頸部上皮内腫瘍	
CIN3/HSIL	58
CIN2/HSIL	14
CIN1/LSIL	4
子宮頸癌	
AIS	3
I A1期	4
I A2期	1
I B1期	1
<hr/>	
その他の悪性腫瘍手術	11
外陰・膣悪性腫瘍手術	1
再発癌手術	3
試験開腹術	3
膣上皮内腫瘍レーザー蒸散	2
転移性卵巣癌に対する手術	2
<hr/>	
附属器摘出術	7
(附属器腫瘍摘出術を含む)	
<hr/>	
子宮筋腫核出術	2
<hr/>	
性器脱手術	3
膣式子宮全摘出術	1
その他	2
<hr/>	
腹腔鏡下手術	26
腹腔鏡下子宮全摘術	3
良性卵巣腫瘍	15
乳癌既往症例の付属器摘出	1
悪性腫瘍に対する診査腹腔鏡	7
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	7
子宮内膜ポリープ	7
<hr/>	
子宮内容除去術	6
子宮内膜増殖症	2
子宮体癌疑い	3
子宮内膜ポリープ	1
<hr/>	
その他	43
CVポート抜去	3
腹腔ポート抜去	1
外陰腫瘍切除術	1
骨盤内腫瘍摘出術	1
腸管穿孔の修復術	1
経膣的腫瘍生検	1
その他	35
<hr/>	
計	335

2018年の手術件数は335件であり、昨年よりわずかに減少した。全体に占める悪性腫瘍手術の割合は著変なく、悪性腫瘍手術に占める子宮体癌の割合はここ10年で最も多かった昨年を上回った。  
(文責 生野寿史)

## 7. 泌尿器科

<hr/>	
副腎腫瘍の手術 (小計6)	
副腎摘出術	4
腹腔鏡下副腎摘出術	1
経皮的副腎腫瘍生検	1
腎腫瘍および腎の手術 (小計63)	
根治的腎摘出術	18
腹腔鏡下根治的腎摘出術	1
腎部分切除術	24
経皮的腎腫瘍生検	3
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	15
腎その他	2
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術 (小計109)	
腎尿管全摘出術	28
尿管カテーテル法 (留置を含む)	77
尿管損傷修復術	2
腎盂・尿管その他	2
膀胱腫瘍および膀胱の手術 (小計352)	
膀胱全摘出術 + 回腸導管造設術	14
膀胱全摘出術 + 尿管皮膚瘻造設術	3
膀胱部分切除術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	329
膀胱内血腫除去・止血術	3
膀胱その他	2
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計6)	
尿道摘出術	1
内尿道切開術	5
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計333)	
前立腺生検	308
前立腺全摘出術	17
経尿道的前立腺切除術	6
両側精巣摘出術 (去勢術)	2
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計15)	
高位精巣摘出術	14
後腹膜リンパ節郭清	1
陰茎腫瘍および陰茎の手術 (小計6)	
陰茎部分切除術	3
鼠径リンパ節郭清	3
後腹膜腫瘍および後腹膜の手術 (小計7)	
後腹膜腫瘍摘出術	2
後腹膜腫瘍生検	2
後腹膜その他	3
その他 (小計5)	

総計 902手技 (860件)

2018年の手術件数は860件 (902手技) で、前年とほぼ同数であった。内訳もほぼ例年と同様であった。  
(文責 小林和博)

## 8. 皮膚科

### 悪性腫瘍

悪性黒色腫	34
基底細胞癌	106
有棘細胞癌	57
ボーエン病	35
日光角化症	37
乳房外パジェット病	8
皮膚附属器癌	6
(汗孔癌3, アポクリン腺癌1, 脂腺癌2, 粘液癌0)	
悪性リンパ腫	1
転移性皮膚癌	8
血管肉腫	2
メルケル細胞がん	1
小計	295

### 良性腫瘍・その他

母斑細胞母斑	136
上記以外の母斑	7
表皮嚢腫 (粉瘤)	125
粘液嚢腫	3
脂漏性角化症	73
脂肪腫	41
皮膚線維腫	21
軟線維腫	9
良性皮膚附属器腫瘍	10
(汗孔腫5, 外毛根鞘腫2, 脂腺嚢腫1, 脂腺腫2)	
血管腫	37
血管拡張性肉芽腫	4
ケラトアカントーマ	8
石灰化上皮腫	19
慢性膿皮症	1
良性神経系腫瘍	4
疣贅	10
リンパ球腫	2
毛嚢炎	2
血管平滑筋腫	4
癒痕 ケロイド	6
リンパ節生検	27
その他	79

小計 628  
合計 923

昨年は緩和ケア病棟工事に伴う手術室利用制限の影響もあり、当科手術件数は全体で50件ほど減少した。しかし、悪性腫瘍手術件数は継続して増加傾向にある。人口高齢化に伴う皮膚癌罹患数の増加は続いており、これからも皮膚癌診療の中核施設としての役割を果たしていきたい。  
(文責 竹之内辰也)

## 9. 眼科

水晶体再建術: 眼内レンズを挿入する場合	125
水晶体再建術 + 緑内障手術	13
濾過手術を含む緑内障手術	14
眼瞼結膜手術	8
硝子体注射	40
その他	2
合計	202

眼科病棟の移転や工事、インフルエンザの蔓延、さらには機器の老朽化による入院、手術制限のなかで、2018年の手術件数は、緑内障に関連する手術件数が増えて、前年と同等の手術件数であった。

また、相変わらず1名による手術体制であったが、手術の種類が多岐となり、難易度の高い症例も多く、他院から紹介される手術対象患者の比率が増大傾向にある。  
(文責 原 浩昭)

## 10. 頭頸部外科

### 甲状腺・副甲状腺

副甲状腺腫瘍摘出	2
甲状腺良性腫瘍半切	12
甲状腺癌	
(半切+D1, 含む残葉切除 + 頸部郭清)	76
甲状腺癌 (全摘)	7
甲状腺癌 (全摘, 頸部郭清)	8

小計 105

### 頸部

頸部リンパ節摘出	11
頸部悪性腫瘍切除, 頸部皮膚再建(大胸筋皮弁)	1
頸部郭清術のみ	5
(原発操作に付属する頸部郭清)	(31)

小計 17

### 気管・喉頭

気管切開	16
気管孔閉鎖	2
プロボックス手術	9
喉頭腫瘍摘出術 (直達鏡によるもの)	23
喉頭全摘頸部郭清	7
喉頭全摘術	2
喉頭亜全摘術 (CHEP)	2
喉頭垂直部分切除術	1
<hr/>	
小計	62

口腔・口唇

口腔底癌切除	1
口腔底舌歯肉部分切除+下顎辺縁切除	1
下顎歯肉癌下顎区域切除+大胸筋皮弁再建	1
舌腫瘍摘出術	1
舌悪性腫瘍手術 (切除)	9
舌悪性腫瘍術後出血止血術	1
舌悪性腫瘍切除 (半切), 前腕皮弁再建	4
舌悪性腫瘍手術 (亜全摘), 腹直筋皮弁再建	1
舌悪性腫瘍手術 (亜全摘), 大胸筋皮弁再建	1
舌悪性腫瘍手術 (亜全摘), 腹直筋皮弁再建, 下顎辺縁切除	1
<hr/>	
小計	21

咽頭

経口的中咽頭癌切除	2
経口的中咽頭癌切除, 頸部郭清	2
中咽頭癌切除, 腹直筋皮弁再建, 下顎辺縁切除	1
下咽喉頭全摘, 大胸筋皮弁再建	1
下咽頭喉頭全摘, 空腸再建	1
下咽頭鏡腫瘍摘出術 (経口腔による)	5
内視鏡下下咽頭腫瘍切除術	1
<hr/>	
小計	13

鼻副鼻腔

上顎骨悪性腫瘍手術	3
<hr/>	
小計	3

大唾液腺

耳下腺良性腫瘍切除	10
耳下腺悪性腫瘍全摘	3
顎下腺腫瘍摘出術	2
<hr/>	
小計	15

その他

末梢型中心静脈カテーテル留置	29
ポート抜去	4
動注ポート留置術 (浅側頭動脈より)	1
PICCポート留置術	5
甲状腺癌術後出血止血術	1
<hr/>	
小計	40
合計	276

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年261件, 2013年265件, 2014年212件, 2015年237件, 2016年251件, 2017年275件, 2018年276件と2015年のV字回復から毎年増加傾向にある。これは, 他院からの紹介数が堅調であったことに加え, 頭頸部癌自体の増加という疫学的な要因もあると考えている。また, 2017年から手術入力システムが刷新され, 自家枠以外の空き枠で手術が可能となった。以降, 現在に至るまで当科の空き枠利用数はトップクラスで, 待機時間の短縮, 手術件数増加, 効率的な働き方などに繋がっている。

**【甲状腺癌】** 甲状腺症例はここ数年, 約100症例で推移している。その多くは筒井クリニックからのご紹介であるが, 加えて県内全域他科の先生方からご紹介も増えている。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoring により反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を継続している。内視鏡下甲状腺腫瘍切除の導入については来年度以降のスタートを目指している。

**【機能温存手術】** 当科の特色のひとつに喉頭機能温存手術がある。LASER切除, 喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘 (CHEP: Cricohyo idepiglott-pexy), プロボックス手術が可能である。これらは多職種連携による術後リハビリテーションが大事である。2013年春から言語聴覚士の加入, 2017年春からの2人体制, 外来看護スタッフのかかわりにより患者満足度を高めている。さらに, 新しい機能温存手術として経口的咽頭癌切除を開始している。これは, 近い将来の手術支援ロボットDaVinci導入を見据えての活動である。

**【総評】** 手術以外にも頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。今後は, これまで以上に県内主要施設, 県外施設との臨床, 研究面での共同作業が必要と考えられる。

(文責 佐藤雄一郎)



## 11. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	84
乳房再建用エキスパンダー挿入 (一次29症例, 二次3症例)	32
乳房インプラント挿入 (一次一期0症例, 一次二期26症例, 二次二期7症例)	33
乳輪乳頭作成	2
有茎皮弁	4
遊離皮弁	13
皮膚腫瘍	3
切除術	3
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド	9
瘢痕拘縮形成術	9

その他	11
眼瞼下垂症手術	2
外傷	1
その他	8
計	107

他科との手術は40件であり、乳腺外科、頭頸部外科、外科、婦人科と手術させていただいております。乳房再建関連手術は74件であり、手術の69%以上を占めています。引き続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み、ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。  
(文責 坂村律生)